

北の技術情報誌
Hint!
Vol.1

北の技術情報誌

Hint!

Hokkaido Information of Technology

創刊号

Vol.1

特集 未来ある「技術」の推進に向けて発信する
**公共工事における
技術活用システム**

Try **生まれかわる大地**
樋門函体の推進工法/パワーブレンダー工法

Report **知恵の芽**
湾岸工事における測深技術の高度化

Focus **すすめ!テクノロジー**
NETIS登録技術14の「技」

Contents 目次

02 創刊のご挨拶

国土交通省北海道開発局 事業振興部 防災・技術センター所長

03 未来ある「技術」の推進に向けて発信する

特集

公共工事における技術活用システム

07 Try 生まれかわる大地

- 樋門函体の推進工法 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所
- 「パワーブレンダー工法」スラリー噴射方式 小樽開発建設部 小樽道路事務所

11 Report 知恵の「芽」

- 湾岸工事における測深技術の高度化 防災・技術センター

13 Focus すすめ!テクノロジー

[NETIS登録技術14の「技」]

ML工法

排水性舗装機能回復装置

「すきとり土」の現場内選別工法

太陽電池式凍結防止剤自動供給システム

電子納品作成ソフト『期楽』

三次元補強ジオウエップ工法

モルタル・コンクリート用びび割れ抑制ファイバー

G-TEX植生土壌診断法

小径曲げ可能なコネクタ付光ファイバコード

広い波長帯で使用可能な光ファイバケーブル

浸水対策光ケーブル

バイオ・種子吹付工

動画パターン検知システム

H鋼杭の泥土除去装置

■表紙の解説 光ファイバ

光にデータを乗せ発信する通信の高度化がめざましい現代。より速くへ届けるために光ファイバには1.2ミクロンから1.3ミクロンの波長の光が使われているといえます。しかも、現在1000種類の波長を使う技術の開発が進み、1本の光ファイバでテラビット(1000ギガビット)単位のデータを送れる時代も近づいているようです。現代における技術の象徴として「光ファイバ」をイメージし、これからの技術開発と発展を願うメッセージをこめています。

創刊のご挨拶

社会資本整備において安全と品質確保、コスト縮減、環境対策などをより一層推進し、国民への良質なサービス提供を実現するためには、新たな技術の研究開発と活用・普及が不可欠であり、また建設産業の健全な発展のためにも、有用な技術と優れた技術力のある企業が競争力を確保できる環境づくりが必要な時代をむかえています。

国土交通省では、このような背景を踏まえ、昨年11月に“技術が支える明日の暮らし”と題した五カ年の技術研究開発の目標を示す「国土交通省技術基本計画」を策定し、さまざまな施策を進めています。

北海道開発局においても、公共事業を取り巻く環境が一段と厳しさを増す中、求められる諸課題の解決のため、新技術の活用並びに普及に積極的に取り組むとともに、北海道発の新技術・新工法を育む環境を創出したいと考えています。

今回創刊しました「HINT!(ヒント)」では、新技術・新工法や技術開発・創意工夫の事例などを取り上げるとともに、国の技術施策なども紹介し、社会資本整備に携わる技術者及び団体の情報共有・交流を通して、技術力の向上と競争力の強化が図られる一助となることを期待するものであります。

平成16年4月

国土交通省 北海道開発局
事業振興部 防災・技術センター所長

